

大野市屋内型子どもの遊び場整備事業実施設計業務プロポーザル総評

令和5年8月23日

大野市屋内型子どもの遊び場整備事業
実施設計業務プロポーザル審査委員会
委員長 菅原弘司

去る令和5年7月14日に締め切った大野市屋内型子ども遊び場実施設計業務プロポーザルについて、審査委員会は二次に渡る審査を行い、下記のとおり決定しましたので、ここに公表します。

記

契約候補者 有限会社 西川建築設計事務所
【 104.54点 / 150点 】

次点契約候補者 野尻建築設計事務所
【 85.54点 / 150点 】

1 審査経過

大野市では、子どもたちが、天候にかかわらず楽しく遊び、子育て世代が交流できる場をまちなかに提供し、子どもの健全な育成及び安心して子育てができる環境の充実並びに中心市街地の活性化を図ることを目的として、越前おおのまちなか交流センターを屋内型子どもの遊び場に改修するに当たり、豊富な実績と専門的な知識に基づく魅力ある企画提案を受けるために、公募型プロポーザルを実施することとしました。

6月16日に第1回大野市屋内型子どもの遊び場整備事業実施設計業務プロポーザル審査委員会を開催し、プロポーザル実施要項等について協議、決定し、6月26日にプロポーザルの手続きについて公告した結果、2者から参加表明書の提出がありました。

7月18日に第一次審査を行い、2者共に参加資格要件を満たしていることを確認し、事業所及び技術者の実績や業務実施体制について評価しました。

その後、2者に対し企画提案書の提出を要請し、8月17日に第二次審査として企画提案内容にかかるプレゼンテーションを受けた後、質疑応答を公開して行い、評価しました。

なお、審査は一貫して事業所名を匿名で行いました。

【経過詳細】

令和5年6月26日（月） 公告
7月 6日（木） 現場見学会申込期限
7日（金） 現場見学会

- 11日（火） 質問提出期限
- 13日（木） 質問に対する回答
- 14日（金） 参加表明書等の提出期限
- 18日（火） 第一次審査
- 21日（金） 企画提案要請通知
- 8月10日（木） 企画提案書等の提出期限
- 17日（木） 第二次審査の審査（プレゼンテーション及び質疑応答）

2 審査講評

第二次審査に参加された2者からは、いずれも概ね基本計画に沿った提案をいただきました。契約候補者の提案は、付帯施設の活用や体育館部分の遊びの空間との連携が優れた提案でした。また、企画提案書がコンセプトやデザイン提案のみならず、改修工事のスケジュールやコストなども含め詳細な部分までまとめあげられており、丁寧な印象が高く評価されました。

一方で、体育館部分の遊びの空間における遊具の配置や相互の安全領域の考え方が単なる遊具の設置となっており、建築デザインによる積極的な提案が乏しい点は大きな改善を求めます。そのほかにも、建築設計事務所と協力事業所である遊具メーカーが連携し大野にしかない施設となることを期待したいという意見などが述べられ、委員間で審査した結果、契約候補者及び次点候補者をそれぞれ上記のとおり選定しました。

今後、関係者と協議を進める中で、子どもや保護者等の意見を実施設計に取り込み、今回の提案をさらに磨き上げ、子どもたちが思いっきり遊べ、何度も訪れたくなる魅力あふれる遊び場となり、また子育て世代の新たな交流の場となる施設が整備されますことを希望いたします。

最後に、限られた準備期間にも関わらず、2者ともに実績に基づいた実現性の高い提案がなされたことに、委員一同敬意を表し、感謝申し上げます。

3 審査委員名簿

役 職	選出団体・機関	役 職	氏 名
委員長	大野市 PTA 連合会	理 事	菅原 弘司
副委員長	放課後児童クラブ保護者	代 表	佐子 晴彦
委 員	福井工業大学 環境学部デザイン学科	准教授	丸山 晴之
委 員	Kids play school (株式会社オーイング)	代 表	幅口 絵里香

委員	福井県民生活協同組合 子育て支援グループ	課長	木村 美由紀
委員	えがおの教室 (放課後等デイサービス)	主任	横井 麻栄
委員	大野市行政経営部	部長	吉田 克弥
委員	大野市教育委員会事務局	事務局長	横田 晃弘

オオノクルン

oōnokuruni



もくじ

施設全体の特徴及び配置計画（建築計画）	・・・01
施設全体の特徴及び配置計画（遊具計画）	・・・02
遊具スペースの構成及び配置や誘発する遊びの種類	・・・03
快適なあそび場空間について	・・・04
安全面での配慮や維持管理、概略工程案及び概算工事費について	・・・05

オオノクルン

oñokũruni

大野の魅力が詰まったあそび場で
地域やそこに暮らす人々つながりながら
子どもたちは成長していきます。
このあそび場でなんども走り回って遊んだ
思い出が大野を愛する気持ちにつながります。

地域と結ぶ

成長を結ぶ

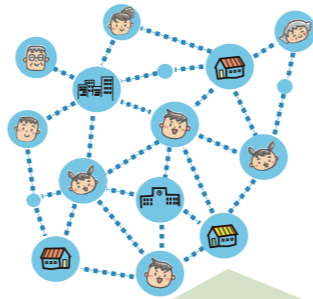
人を結ぶ

毎日笑顔が繋がって縁が結ばれていく結のあそび場

1 遊びだけではなく子どもと笑顔、地域と人、縁と縁、いろんなものが繋がる結のあそび場

雄大な自然に囲まれ、城下町の歴史に風情を感じる大野にふさわしい象徴となる屋内型子どものあそび場を創ります。ここにはいろいろな子どもたちが来ます。元気に走り回るのが好きな子。おままごとが好きな子。友達とおはなしするのが好きな子。本を読むのが好きな子。大野の大切な「**たからもの**」である子どもたちがどんな時でも「**すきなこと**」を出来る環境を私たちは創りたいと思います。さらにあそび場にいろいろな要素を加えて『**すきな〇〇**』が**繋がる場所**とします。学校が違う子と会える場所。初めてのママ友、パパ友が出来る場所。車イスでもみんなに交じって遊べる場所。学校では学ばない地域のことが分かる場所。普段の生活では繋がることのなかった『**縁が繋がる場所**』です。

地域にとって子どもたちは未来であり希望です。そんな子どもたちがこの施設を通して元気いっぱい遊びながら大野について興味をもつ機会を増やしたり、地域とつながりを持つことが出来るような要素をちりばめて、宝探しのように子供たち自身が興味を持ってくれるような仕掛けを施しています。さらには障がいのある人や同伴者にとっても**安心・安全で心地よい空間づくり**を行うことで全ての人を使いやすい、何度も訪れたいような施設を目指して計画します。



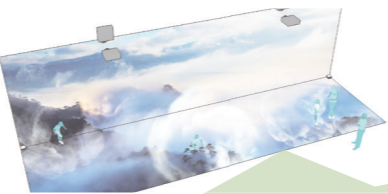
2 施設の特徴 建築(構造、基準法)+遊具+映像コンテンツの縁結び

1 建築的特徴として、もともとが体育館であるポテンシャルを活かし子どもたちが元気に走り回って遊びやすいことを活かしつつ、構造上重要な耐震壁などはできるだけ改修しない配置計画を提案します。

さらに改修を行うことで建築基準法で用途が変更となる場合、内装制限がかかり大規模な内装の改修が必要となる場合があることを想定し、既存のキャットウォーク部分はそのままとしてネット遊具を設置することで大規模改修をせずに済むことでコスト削減も考慮した計画を提案します。

2 遊具の特徴としてはステージ前に施設の**シンボルとなる大野城を表現したタワー遊具**を設置します。その上に子どもたちの大好きなネット遊具を大きく配置し、ネット遊具から延びる滑り台やトランポリンを。また、身体を動かすことが得意ではない子もおままごとや乳児エリアの遊具があることでさらに魅力的なあそび場となります。

3 結のあそび場独自の特徴として、建物や遊具の更新や改修は簡単には出来ず、費用だけでなく様々な計画が必要になります。そこでここに追加要素として映像コンテンツを盛り込んでいくことで動きがあるものを取り入れ、掛け合わせることで飽きることなく何回足を運んでも**新しい発見が出来る施設**を創ります。さらに季節ごとに変化をつけたり、職員の撮影した映像なども簡易に取り込めるようなシステムとしておくことで将来的にも無限大の可能性を広げることが出来るように計画します。



3 みんなが使いやすい配置計画

1 みんなが使いやすいゾーニング計画

今回私たちは、最初に利用者のもっとも利用しやすい動線計画を検討しました。メインとなるものはあそび場の利用でその他にワークショッブルームと多目的ルームの個別利用があり、この3つの用途と玄関ホールに面して事務室を設けました。理由としては起点となる位置にあることから受付をしやすい、かつ万一のあそび場での事故の際も駆けつけやすい位置となるからです。また飲食、休憩スペースを既存の建物を利用することから**耐震壁を触らずに改修**することが重要になります。利便性や安全性が損なわれないようにあそび場にせり出す形でスペースを確保しました。それによって子どもたちを確認できる視野を確保しながら耐震性に影響のない配置計画としています。

2 大野を表現したゾーニング計画

あそび場の中を**大野らしい名称で年齢別のエリア**分けすることで遊具の対象年齢を分かりやすくします。名称を大野らしい表現とすることで子どもたちに無理矢理に覚えさせるのではなく、自発的に遊びの中で学びながら大野の素敵なおとこを感じることが出来る仕掛けを施していきます。



1 エリア分けされたあそび場

あそび場内を大野を表現した名称でエリア分けすることで対象年齢も分かりやすくなり、なおかつ『しろ』や『みず』などの大野の誇れるものが分かる大野のことを身近に感じてもらえるようにしています。

2 体感映像コンテンツ

溪流の映像を流して子どもたちが川の上を渡るセンサーによって流れが変わるように見える仕掛けをします。壁には季節の風景が流れたり、満天の星空が映し出され大野の美しい情景を体感することが出来るようになります。

3 大野城 タワー遊具

大野のシンボルである越前大野城をモチーフにします。遊具としての機能とネット遊具への通路にもなります。さらにステージ下に『こもりスペース』を設けて安心できる場所もつくりまします。

4 ネット遊具

あそび場の上部には大野城にかかる雲海のようなネット遊具を設置します。これによって天空の大野城を表現して子どもたちは雲の上で遊んでいるように感じられる遊具となるように計画します。

5 大野を表現した遊具

あそび場にはそれぞれのエリアごとに大野を表現した遊具を配置することで遊びの中で自然と大野を感じ、学べるスペースとすることで子どもたちの好奇心やワクワクを育てる環境を整えます。

6 非常口へのスロープの設置

あそび場内の非常口は何か所か設けますがレゾリエンス遊具や乳児エリアの近くとなる場所には新たにスロープを設けて専用のサインも設置し分かりやすくすることで非常時にも冷静に対応しやすいように計画しています。

7 いえエリアからの視界確保

飲食・休憩スペースをあそび場内に飛び出すように配置し遊ぶ子どもたちを見守りやすいように計画しました。さらにスペース間を直接つなげることで、動線的にも利用しやすく、居心地の良い環境を提供します。

8 キットトイレ

夢中になるとトイレのことなど忘れて遊ぶ子どもたちですがあそび場から近くで直接出入りできる場所に配置することで子どもたちの急なトイレの利用にも対応できるように配慮した配置とします。

9 ベビールーム(授乳室)

ベビールームは乳児エリアから近く、遊び場から直接入れる場所として室内はゆったりとした大きさを確保して、個室を設けて直接中が見えないようにプライバシーに配慮し性別に関係なく利用しやすいように計画しています。

10 事務室・受付

建物の中央に配置することであそび場との距離が近くなり、もしもの時にも迅速にかけつけことができ、あそび場、ワークショッブルーム、多目的ルームのどこを利用する人にも分かりやすい配置とします。

11 やすらぎスペース・トイレ

やすらぎスペースはあそび場から離れた場所にする事で落ち着くことのできる静かな空間とします。トイレには児童用の小便器やベビーチェア、ベットのなども設置することで子どもと一緒に利用できる様に計画しています。

12 ワークショッ・多目的のルーム

ワークショッブルーム、多目的のルームは別々に設けることで運動教室と学習教室のように多様な利用方法が可能となり、既存と似た用途で使用する事で設備の再利用が出来、建築コスト削減を図る計画とします。



3つの結をつくりだすあそび場



1 地域と結ぶ

あそび場に大野の文化・歴史を感じる場をちりばめています。遊びを通じて子どもたちが大野の魅力を初めて感じたり、再認識する場を目指しています。

全体の構成として雲海に浮かぶ大野城をイメージし、雲に乗ったような巨大なゆらゆらネットから顔を出す、私たちのシンボル大野城、そのお城に抱かれた眼下に広がる城下町で、子どもたちが元気に成長してゆく、ともに大野の街が発展する様を描いています。

1 映像で大野の自然と触れ合う

六呂師の星空や仏御前の滝など大野市の名所を映像あそびを通して知ること、**実際にその場を訪れるきっかけづくり**にもなります。

2 遊びの中で歴史と文化に触れ合う

メイン遊具は大野城をモチーフにしています。遊具で遊ぶことが街のシンボルに愛着を生むことにもつながります。また、ごっこ遊びの備品デザインには越前大野結ステーションの時鐘や城下町のイメージを取り入れます。**地域の文化を感じる中で、社会性や創造力を育むことができる空間**を目指します。



■六呂師の星空



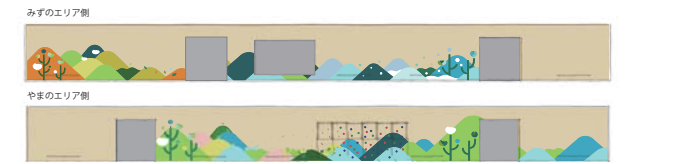
■大野のシンボル

3 地域で育った木と触れ合う

木のボールプールやクライミングのグリップといった**子どもたちの手が直接触れる部分には県産材を使用**することで、小さな頃から木に触れ合うことができます。

4 大野の地形と生き物に触れ合う

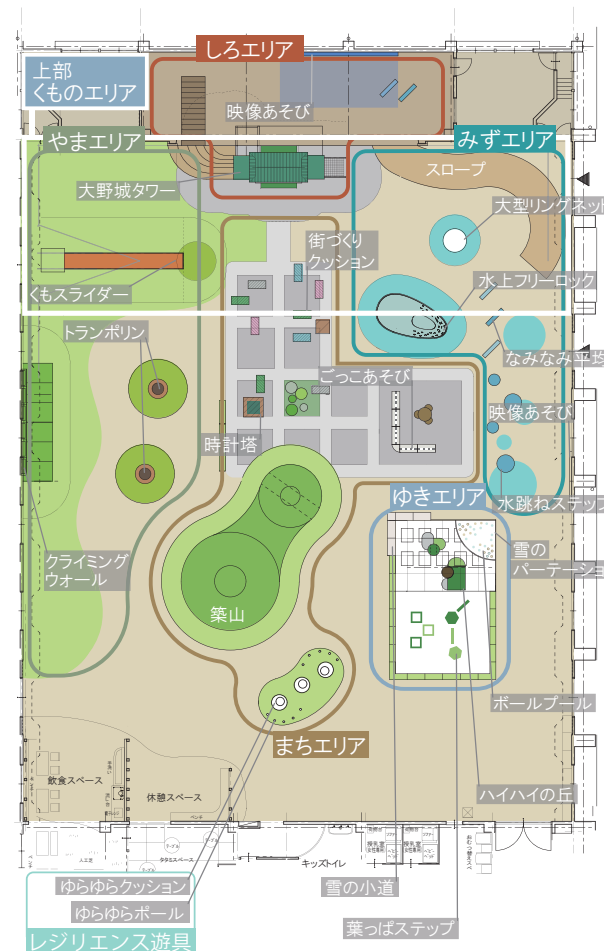
壁面に山々のイラストを施すことで盆地の地形を感じる空間にしています。山の色合いを変化させることで、**四季を感じる**ことができ、ウグイスやコブシといった大野の鳥や花を入れ込むことで、**地域に触れ合うことが出来るように計画**します。



■大野の四季イラスト

2 成長を結ぶ

子どもたちのからだづくりについて研究をおこなっている、早稲田大学教授で医学博士の前橋明氏が監修した「4つの運動スキル」を向上させるためのあそびを各年齢のエリアに配置しています。



バランスをとる運動スキル

姿勢を維持する運動スキルです。不安定な場所でもバランスをとろうとすることで、平衡感覚を養います。

その場での運動スキル

その場でものにぶら下がったり、しがみついたり、押したり、引いたりすることで、筋力や持久力が高められます。

操作する運動スキル

道具や物を、手足を使って操作をする動きです。物を操って楽しく遊ぶことで、協応性や巧緻性が養われます。

移動する運動スキル

自分のからだを意識し、ものとの距離感をつかむ空間認知能力や全身の筋力を育みます。

スキル	みんな	乳児	幼児	児童
バランス	ゆらゆらクッション	雪の小道	水上フリーロック なみなみ平均台	ピックウェーブスライダー
操作	ゆらゆらボール	雪のパーテーション	ジャンプタッチ	大野城タワー
その場	築山	ハイハイの丘	大型リングネット 水上フリーロック 大野城タワー	クライミングウォール 大野城タワー
移動	葉っぱステップ	水跳ねステップ		

3 世代や個性を結ぶ

1 多世代交流の場としての見守りエリア

まちエリアには老若男女・障害の有無に関わらず遊べる街づくりクッションや人工芝の築山、レジリエンス遊具を配置することで、**多世代交流の場としての役割**を持たせます。見守り中の大人同士のコミュニケーションの場になったり、**遊びの中で子どもたちが年長者から地域の歴史を学ぶ場**にもなります。人との結びつきを深め、「**地域で子育てをする**」きっかけを生む空間です。

2 身体や発達に障がいがある子どもたちにとっても楽しめるあそび場

身体や発達に障がいがある子どもたちにとっても楽しめるあそび場を目指します。車イスに乗っていても、あそび場の奥までスムーズにアクセスができるように、入口から入って右側の通路は車イス同士がすれ違える有効幅を確保した動線計画とします。

また、映像あそびやゆらゆらボールは**車イスにのりながらでも他の子どもたちと一緒に遊ぶ**ことができます。大人数の中で遊ぶのが苦手な子どもや、クールダウン・カームダウンが必要な子どもたちの居場所も確保できるよう、あそび場の中心から少し離れた場所に、**落ち着いて遊ぶことができるゆらゆらクッション**やステージ下には「**こもりスペース**」を設けています。

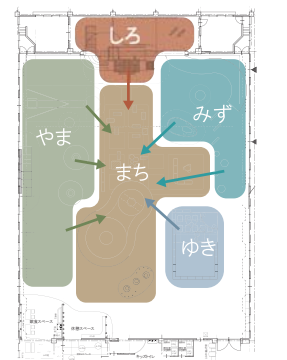
レジリエンス遊具とは「RESILIENCE PLAY GROUND」を紅谷浩之医師と共に立ち上げ、障がいをもつ子どもたちのあそびを研究し、遊具を媒介として多様な個性・特徴をもつ子どもたちがつながれるインクルーシブなあそび環境づくりを目指しています。ゆらゆらボール・ゆらゆらクッションは感覚刺激や色刺激を抑え、どのような体勢の子どもでもあそべる遊具です。



ゆらゆらクッション



ゆらゆらボール



■エリア配置図



■見守りエリア



■車イス動線、こもりスペース

大野の自然や歴史を駆け巡るあそび場

1 大野の魅力を感じながら成長できるあそび場空間

・成長に寄り添う空間づくり

まちエリア（全年齢ゾーン）、しろエリア（児童・幼児ゾーン）、くもエリア（児童ゾーン）、やまエリア（児童ゾーン）、みずエリア（幼児ゾーン）、ゆきエリア（乳幼児ゾーン）の6つのエリアを配置し、大野の魅力とふれあいながら様々な運動スキルを習得できます。乳児期→幼児期→児童期の各年齢に応じて難易度を変化させ、子どもたち一人ひとりの個性や成長に合わせた何度も来たくなるようなあそび空間を創り出しました。



しろエリア

対象：3-12才（幼児・児童）

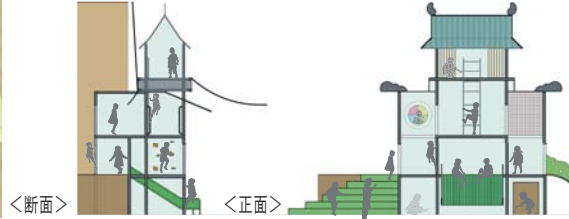
天空の城 大野城をモチーフにした「大野城タワー」をステージ前の中央に配置します。ステージ上は、映像あそびを取り入れ、大野らしさを感じられるエリアです。

1 大野城タワー

高さは約6mあり、あそび機能が充実の迫力満点タワー遊具です。内部構造は幼児エリアと児童エリアで難易度を変えており、グリップのぼりや穴あきパネルが設置されています。冒険心をくすぐられながら、雲海ネットへと全身を使って探検することができます。

2 映像あそび

溪流の映像を流して子どもたちが川の上を渡るとセンサーによって流れが変わるように見える仕掛けを施します。壁には季節の風景が流れたり、満天の星空が映し出され大野の美しい情景を体感できます。



■映像あそびイメージ

まちエリア

対象：全年齢

動線的に人が交差する体育館中央に城下町のあそび場を配置します。あそびの築山と見守りの築山を設置し、人々が集い、交流の場となるエリアです。

5 ゆらゆらクッション

下部はクッションの小さな反発を利用し、包まれながら揺れを楽しむことができる遊具です。

8 まちづくりクッション

大きな積み木型クッションを並べてまちづくり体験ができます。床にデザインされた道の上に、大きな家や木のクッションを並べて、歴史ある城下町大野を象徴する町並みを創造します。

6 ゆらゆらポール

音や動き、振動のフィードバック感を楽しめるポール型の遊具です。寝たきりの子どもでも一緒に夢中になって楽しむことができます。

9 ごっこあそび

七間商店街をイメージしたごっこあそびを設けます。ごっこあそびをする中で大野の魅力を感じながら、友だちや親子と共に想像力やコミュニケーション力を育むことができます。



■ゆらゆらクッション



■まちづくりクッション



■築山



■ごっこあそび

くもエリア

対象：6-12才（児童）

体育館上部には、大人数で遊ぶことができるネットフロアを配置します。雲の中で遊んでいるような浮遊感を楽しめるエリアです。

3 雲海ネット

大空間の雲海ネットに寝そべったり座ったりして遊ぶことで、景色を楽しんだり、リラックスした時間を過ごすことができます。また、揺れるネットを飛んだり跳ねたりして、バランス感覚を養うことができます。



4 くもスライダー

雲海ネットから滑るスライダーは、スピード感やウェーブを楽しむことができ、スリル満点の体験が得られます。バランス感覚や筋力、体力を鍛えることができます。



やまエリア

対象：6-12才（児童）

何度も挑戦したくなる難易度の高いあそびが展開されているエリアです。

10 クライミングウォール

全身を使い、バランス感覚や空間認知能力が特に養われます。また、目標達成のためにチャレンジすることや、頭を使って攻略することで達成感も味わうことのできる魅力的な遊具です。また、クライミングのウォーミングアップとしてジャンプタッチ等の体を動かす仕掛けが隣に配置します。



■クライミングウォール



■トランポリン

11 トランポリン

上下に跳ぶことで、楽しみながら体幹を鍛えることができ、バランス感覚や柔軟性も養うことができます。

みずエリア

対象：3-6才（幼児）

子どもたちの活発な身体運動を促すあそびを配置します。名水百選に選ばれている大野の湧き水を連想させるエリアです。

12 水上フリーロック

ステップを登る代わりに凸凹を自由なルートで登ることで、“滑るために登る”のではなく登る体験そのものが子どもたちの自由な発想や感覚を養います。

13 水跳ねステップ

芯材に高反発ウレタンを使用しているため、軽くジャンプをすることができます。湧き水をイメージしたステップで遊びながら全身運動ができ、同時にバランス感覚を養います。

14 なみなみ平均台

ウェーブに合わせて平均台を渡りバランス感覚や集中力を養います。波に乗るようなクッションで好奇心を刺激する平均台です。

15 大型リングネット

大型リングネットを登ることで、筋力やバランス感覚、協調性などの身体能力を发展させます。雲海ネットを目指して、仲間と共にチャレンジ精神を育みます。

16 映像あそび

ゲーム性のある知育コンテンツを盛り込んだ映像あそびを展開します。車椅子の子ども画面に触れる事で楽しく遊べます。



■大型ネットリング



■映像あそびイメージ

ゆきエリア

対象：0-2才（乳幼児）

豪雪地である大野の雪景色をあそびの中に取り入れます。パーティションを用いて、低年齢児でも安心して遊べる環境を整えたエリアです。

17 雪の小道

つかまり立ちを始めた赤ちゃんのほふくを促す段差やスロープを用いた仕器です。ほふく運動をすることは、運動機能や筋力の発達など多くの効果を得ることができます。

18 ハイハイの丘

乳幼児期重要なハイハイを促進させるためのマットです。筋力やバランス感覚が鍛えられます。

19 葉っぱステップ

サーキット遊びができる運動教具です。広げておくと平均台のように渡ったり、ジャンプで飛び越える遊びができます。

20 雪のパーティション

遊びを取り入れた自立式のパーティションです。空間を仕切るだけでなく、年齢に合わせた遊び要素を取り入れているため、子どもの知育につながります。感覚機能や運動機能の向上につながります。

21 木のボールプール

大野の木材を利用した木育スペースです。木のぬくもりに包まれながら五感からリラックスして遊ぶことができます。



■雪の小道



■雪のパーティション



■葉っぱステップ

訪れる人みんなが居心地のいい空間づくり

1 あそび場と一体的に利用できる「楽しく、くつろげる空間」

1 あそび場と一体的で開放的な「いえエリア」

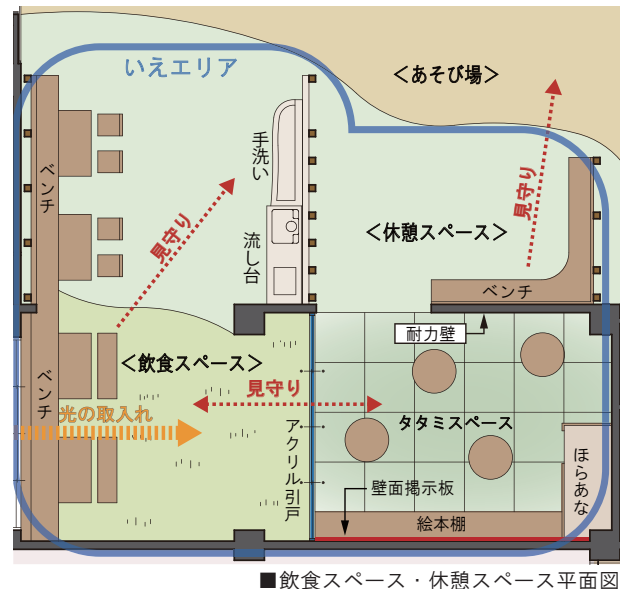
- あそび場に飲食スペースや休憩スペースを張り出して配置して兼用スペースとすることで、あそび場と一体的に利用できるようにします。飲食スペースや休憩スペースがあそび場で遊ぶ子どもたちのホームとなるイメージをして、「いえエリア」とします。張り出した部分は家型のパーゴラ形式とし、壁や天井を造らないことで、開放的で明るい空間となります。視認性が良くなるため、飲食スペースや休憩スペースからあそび場で遊ぶ子どもたちを見守ることができ、複数人の子どもを連れて利用される同伴者の方も安心することができます。
- 飲食スペースと休憩スペースの間はアクリルの引戸とすることで一体として利用することができ、耐力壁があるため閉鎖的となるタタミスペースに光を取り入れると共に飲食スペースからも見守れるようにします。

2 アウトドア気分になれる飲食スペース

- 六呂師高原やキャンプ場をイメージし、床仕上の一部を人工芝とすることで、ピクニックに来たような楽しさのある飲食スペースとします。テーブルを利用する他に、レジャーシートを持参して人工芝に座ってお弁当を広げることもできる空間とします。手洗いや流し台はあそび場の耐力壁側に配置します。
- 内装には大野市産の多様な樹種の板を使用し、自然の中にいるようなぬくもりを感じながら、肌触りの違いを感じられる空間とします。天井は空模様のクロスとし、間接照明にて雲の切れ間から光が降り注ぐイメージとすることで、アウトドア気分を楽しめます。

3 ゆったりとした時間を過ごすことのできる休憩スペース

- パーゴラ部分にはベンチを設置し、座りながらあそび場を見渡すことができるようにします。
- タタミスペースでは子どもたちが絵本を読んだりお絵描きをして静かに過ごすことのできるあそび場とします。本棚と一体化したほらあなの中にも入れるようにします。また、タタミ敷とすることで、遊び疲れてしまった子どものお昼寝スペースとしても活用できます。
- 壁一面を掲示板とし、子どもたちの描いた絵や折り紙等の作品を展示できるようにします。



既存雑壁のみを改修し、耐力壁は維持することで建物の構造を大きく変更しない計画とします。



■いえエリアイメージ



■飲食スペースイメージ

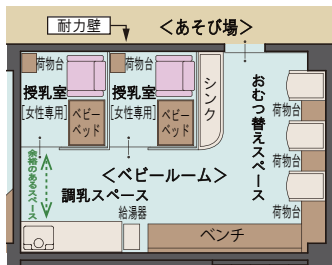


■タタミスペースイメージ

2 みんなにやさしいあそび場空間

1 パパでも入りやすくママも安心して利用できるベビールーム

- 男女共用となるおむつ替えスペースや調乳スペースの中にある女性専用の個室授乳室の入口はベビールームの奥側に配置します。調乳スペースとの後方にはスペースを確保し、授乳室に入りやすくします。
- ベンチを入口正面のおむつ替えスペース付近に配置し、座っている位置から授乳室内部が見えないようにすることで、男性でも気軽にゆっくりと授乳を行うことができるように配慮します。
- 授乳室はソファとベビーベッドを置けるゆとりある寸法とし、子どもを複数人連れている場合でも一緒にいることができるようにします。扉にはピクトサインを設置し、女性専用であることをわかりやすく周知します。個室は天井までのブースで仕切り、カーテンではなく鍵付きの扉とすることでプライバシーを確保し、女性が安心して利用できるようにします。
- 調乳スペースには間口の広い流し台を設置し、広い作業スペースを確保することで、混雑時にもスムーズに利用することができるとがこできます。
- おむつ交換台には荷物置場をつくり、相互の間隔にゆとりを持たせます。後方にはシンクを設置し、手洗いや汚れた衣服等の水洗いができるスペースとします。



■ベビールーム平面図

2 ゆったりとしたトイレ計画

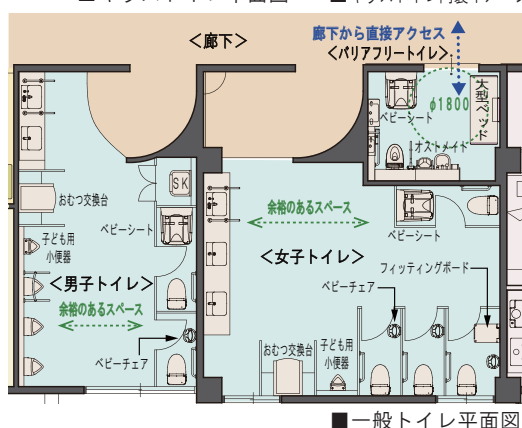
- あそび場に隣接した位置にキッズトイレを配置し、直接利用できるようにします。内装は大きな木の幹状の壁の下にいるようなイメージで、子どもが一人でも入りやすく楽しいトイレとします。
- 一般トイレは標準的な寸法より広いスペースを確保し、子ども用小便器やおむつ交換台を設置することで、集中するバリアフリートイレの使用率を分散させます。個室にはベビチェアやベビシートを設置します。また、ベビチェアに座った子どもが触って開けてしまうトラブルを防止するためにブースの鍵は上下2カ所とします。
- バリアフリートイレは車いす利用者も入りやすいように廊下に面して配置します。ベビシートや折りたたみ式大型ベッドの他、オストメイトにも配慮した上で十分に車いすを回転できるスペースを確保します。



■キッズトイレ平面図



■キッズトイレ内装イメージ



■一般トイレ平面図

3 ユニバーサルデザイン

- エントランスにはベビーカー置場を配置することで、まちなか観光や散歩の途中で利用する方にも配慮します。
- ステージの正面には階段とスロープを設置し、子どもや車いす利用者もステージ上のあそび場で遊べるようにします。また、階段やスロープには手摺を設置し安全に上り下りできるようにします。
- 案内サインは見えやすい壁面や床面に設置します。あそび場の部分には吊り下げ型の立体サインとすることで、子どもや外国人などなたでも入口から年齢エリアが一目でわかるようにします。また、各エリアの遊び方等の説明サインもエリアの見やすい位置に設置します。
- やすらぎスペースは、障がいのある人のパニック時の落ち着きスペースや一人でゆっくりと休みたい時などに利用できるスペースとし、にぎやかなあそび場から離れた位置に配置します。
- 現在あそび場の非常口からの避難通路は階段となっているため、車が通ることのない商工会議所側の非常口に増し打ちをして段差をなくしスロープを増設することで車いす対応とし緊急時に備えます。



■吊り下げ型サインイメージ

見守る大人や管理者にとっても使いやすい施設

1 安心して遊べるあそび場づくり

1 遊具の安全性の確保

国土交通省の「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」に基づきながら、遊具メーカーとしてこれまでに蓄えてきたノウハウや全国のお客様から寄せられる事故につながりかねないようなヒヤリ、ハッとした事例等を反映した独自の安全規準「JQ遊具安全規準」を策定し、よりきめ細やかな基準に基づいて更なる安全を目指します。さらに福井県内のモデル園の協力の元に専用の検証器具を使用し、0歳から安心して遊べる遊具の開発をしています。



■ JQ遊具安全基準

・乳幼児エリアは低いベンチと間仕切りを設け、**幼児エリアと児童エリアの遊びが重ならないように配慮**します。遊具や家具同士の距離を充分にとることで、体を動かすために余裕のある空間を確保し、また車いすに乗ったままでも移動することができます。

・落下の恐れがある滑り台下やクライミングの下には適した資材のクッションマットを設けます。クライミングは横移動をメインにグリップを配置し、落下高さを抑えた計画とします。乳幼児エリアの乳児ほふくエリアの床面にはクッションマットを施工し、その他の床面にはクッション性と防滑性のある長尺シートを施工することで**転倒時の衝撃を和らげます**。

2 耐力壁を極力利用する平面計画

・既存の耐力壁を改修する計画とすると構造の見直しとして、建物全体の耐震診断と補強計画を行う必要があり、設計・施工に時間と費用がかかってしまうため、**耐震壁をそのまま利用し、構造耐力を維持することで、工期の長期化の防止とコスト低減**を図ります。

・耐力壁の開口を拡大する場合には壁厚の増し打ち等の補強を行い、耐震性を確保します。

3 見守りカメラによる死角の軽減

・施設の内部や外部にはどうしても職員の目が届かない場所ができてしまいます。そのような**死角にカメラを設置して事務室で確認**できるようにすることで、利用者の異変に即時に気付き対応することができます。屋内カメラは監視されていると感じにくいように威圧感の少ないものを選定します。

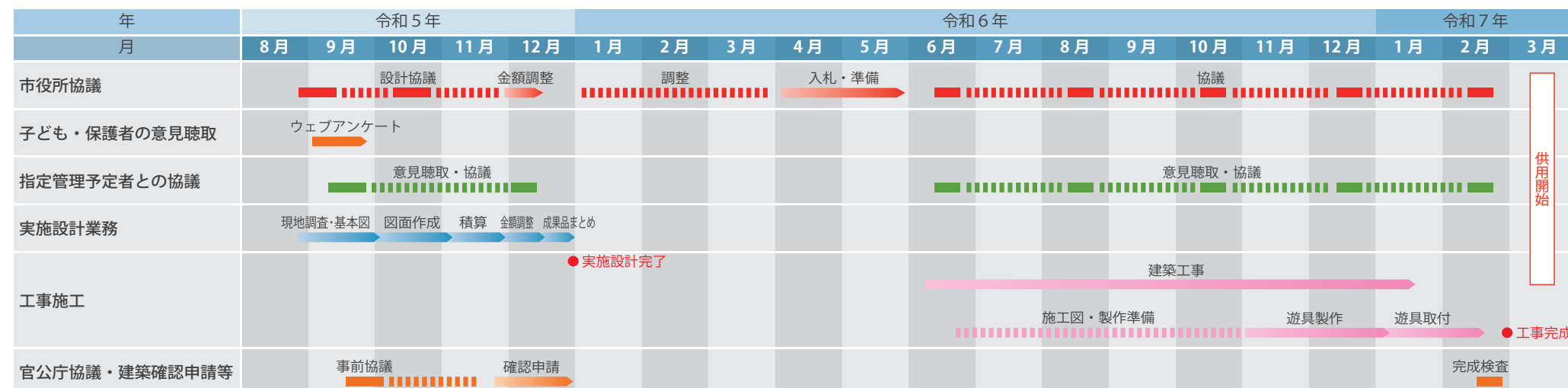
4 実人数の把握

・指定管理予定者との協議にもよりますが、人数カウントシステムの導入を提案します。受付にて総来場者数は把握できますが、実際にあそび場を利用している人数を出入口に設置したカメラにより把握することで、**入場人数の制限を行い、密度が高くなりすぎることでの衝突の危険や新型コロナ等の感染症の拡大を防止**することができます。



■人数カウントシステム

3 概略工程表



2 維持管理のしやすい施設

1 トータルコストを考慮した屋上防水計画

・玄関ホールやワークショッブルーム等のある低天井部分は屋上防水が未改修となっており、現在雨漏りの形跡や歪みが見られるため、全面防水改修を行います。耐久性や耐寒性に優れ、耐用年数が15～20年である塩ビシート防水を採用します。アスファルト防水やウレタン塗膜防水と比較して**費用対効果が高く、シートの厚さが均一で広い面積を一度に施工ができるため、工期短縮も可能**となります。

	塩ビシート防水	ウレタン塗膜防水	アスファルト防水
材質	軟質塩化ビニル樹脂	ウレタン	アスファルト
厚み・構成	1.5mm～2.0mm 単一層	1.5mm～3.0mm 表面はトップコート仕上	10.0mm(標準) ルーフィング、砂付き等 8層
耐寒性	-40℃	-60℃	5℃以下で低温脆化
材料の耐用年数	15年～20年	3年～10年	11年～13年
経済性	防水工事以外の費用が 軽微なため トータル的には割安となる	既存防水層・防水押え層の除去処分や 再下地作り、降雨養生費等の 防水工事以外の工事費用が相当かかる	同 左
評価	○ 防水性能・耐久性は良い	△ 性能的には良いが、コストがかかる	△ 性能的には良いが、コストがかかる



■屋上防水比較表

■現状の天井雨漏り跡

2 メンテナンス性の高い仕上材の選定

・休憩スペースのタタミを洗えるタタミとする等、**日常的に清掃が容易な防汚性の高い仕上材や取り換えの容易な規格建材等**を使用します。腰壁部分や出隅部分の耐衝撃材の使用や補修が困難な有機系塗装の範囲を限定する等、より壊れにくく直しやすい仕上げ材を選択することでメンテナンス性能を向上させます。また、特殊な機器を導入するのではなく、シンプルで使いやすい機器を採用することで、長期的に考えて経済的な計画とします。

3 耐久性の高い材料での遊具造り

・材料はJIS製品もしくは同等品以上を使用し、強度に万全の配慮を行います。こども園や公共施設に納品している実績があり、その経験を活かして、**長期間にわたり使用できる素材を選定し使用**します。また、**全てのパーツは自社工場にて製作し在庫管理しているため、部品の交換や修繕が必要な際には迅速に対応**を行います。

・木材は国産材(県産材も使用)を用い、防腐対策を行います。木材の表面には割れ防止や防腐・防虫・防カビ性能を有する木材保護塗料を施工することで耐久性を向上させます。

4 安全管理システムによる遊具管理

・「QRコード」と「遊具安全管理システム」の2つを利用し、遊具設置後も安全管理を行っています。各遊具に設置したQRコードを読み取ることで、遊具の設置年月日や消耗部品の交換日などを確認することができ、本社サーバー内の遊具安全管理システムでは、修繕や点検の履歴を蓄積し、**管理者様へ定期的な点検や部品交換のご案内をメールにてお知らせ**します。



■QRコード

4 概算工事費

	工事費	
建築工事	85,710,000円	内装工事、屋上防水他
電気工事	9,160,000円	照明、非常放送、防犯カメラ
給排水工事	9,550,000円	衛生器具、給湯、ガス
空調工事	3,000,000円	空調、換気
映像工事	28,000,000円	体感映像コンテンツ
遊具工事	79,200,000円	遊具全般
小計	214,620,000円	
経費	30,000,000円	共通仮設、現場経費、一般管理費
合計	244,620,000円(税別)	269,082,000円(税込)

大野市屋内型子ども遊び場指定管理予定者プロポーザル総評

令和5年8月23日

大野市屋内型子どもの遊び場整備事業
指定管理予定者選定委員会
委員長 松田博史

去る令和5年7月14日に締め切った大野市屋内型子ども遊び場指定管理予定者プロポーザルについて、選定委員会は二次に渡る審査を行い、下記のとおり決定しましたので、ここに公表します。

記

契約候補者 株式会社 ジャクエツ
【 333点 / 550点 】

1 審査経過

大野市では、子どもたちが、天候にかかわらず楽しく遊び、子育て世代が交流できる場をまちなかに提供し、子どもの健全な育成及び安心して子育てができる環境の充実並びに中心市街地の活性化を図ることを目的として、越前おおのまちなか交流センターを屋内型子どもの遊び場に改修することとしました。

この施設の維持管理、運営は、民間のノウハウを活用し、施設の利用促進を図るとともに、自主事業の実施によりサービスの向上につなげ、より賑わいのある施設とするために、指定管理者制度を活用することとしました。

実施設計の段階から管理する者の意見を聞くことで、管理や点検がしやすい施設に整備することができることや維持管理や運営について事前に協議することで万全の態勢で供用開始できることから、あらかじめ指定管理予定者を選定するための公募型プロポーザルを実施することとしました。

6月16日に第1回大野市屋内型子どもの遊び場整備事業指定管理予定者選定委員会を開催し、プロポーザル実施要項等について協議、決定し、6月26日にプロポーザルの手続きについて公告した結果4者から参加表明書の提出がありました。

7月18日に第一次審査を行い、4者共に参加資格要件を満たしていることを確認し、企画提案書の提出を要請しました。

しかしながら、3者からプロポーザル参加表明辞退届の提出があったため、企画提案書は1者のみの提出となりました。

8月18日に第二次審査として企画提案内容にかかるプレゼンテーションを受けた後、質疑応答を公開して行い、評価しました。

なお、審査は一貫して事業所名を匿名で行いました。

【経過詳細】

令和5年6月26日（月）	公告
7月6日（木）	現場見学会申込期限
7日（金）	現場見学会
11日（火）	質問提出期限
13日（木）	質問に対する回答
14日（金）	参加表明書等の提出期限
18日（火）	第一次審査
21日（金）	企画提案要請通知
8月10日（木）	企画提案書等の提出期限
18日（金）	企画提案書等の審査（プレゼンテーション及び質疑応答）

2 審査講評

第二次審査に参加された1者の提案内容は、施設保守管理業務などの維持管理や見守り（安全確保）に重点をおいたものでした。プレゼンテーションに対する質疑応答では、提案者から「提案したコンセプトを実現するためには、提案書に記載した以外の事項についても今後検討していきたい」との発言がありました。

委員会で審査した結果、提案者を契約候補者に選定することに決定しましたが、市内で初めて屋内型子どもの遊び場が整備されることから安全で安心して遊ぶことができる施設となるよう、今後、市と運営方針についてしっかりと協議することを求める意見が述べられました。

今後、関係者と協議を進める中で、市内事業者との連携や自主事業（物品の販売等）をはじめとしたソフト面の充実などを行うことで、子どもたちが思いっきり遊べ、何度も訪れたくなる魅力あふれる遊び場となり、また子育て世代の新たな交流の場となり、まちなかの賑わいに寄与する施設としていただくことを希望いたします。

最後に、限られた準備期間にも関わらず、実現性の高い提案がなされたことに、選定委員一同敬意を表し、感謝申し上げます。

3 選定委員名簿

役職	選出団体・機関	役職	氏名
委員長	福井県中小企業診断士協会	理事	松田 博史
副委員長	大野市PTA連合会	会長	稲津 直美

委員	放課後児童クラブ保護者	代表	吉本 亜美
委員	大野市児童センター	館長	幅岸 清美
委員	大野市行政経営部	部長	吉田 克弥
委員	大野市教育委員会事務局	事務局長	横田 晃弘